次期学習指導要領 教科別まとめ　中学校 No.12

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

# 特別活動

## 次期学習指導要領で、どう変わる？

**子供が学級・学校をよりよく創る「社会創造」の活動へ**






**10秒でいうと**　生徒会（小は児童会）が校則など学校運営に意見を出す活動に。評価は個人内評価へ

### やさしく言うと

中学校でも、生徒が学級や学校という身近な社会をよりよく創る「社会創造」の視点で特別活動を見直す方向です。生徒会活動には、校則など学校運営への「意見表明」を書き込む案です。学級活動の項目数が多い点は、中・高を中心に精選する方向です。
学校行事は、生徒たちが創造する活動だと明確にします。
AIは役立つ場面がある一方、話し合って決める主体はあくまで生徒です。

### 中学校はいつから？

| | |
|---|---|
| 全面実施 | 2031年度（令和13年度）から（見込み） |
| 移行期間 | 2028～2030年度 |
| 告示 | 2026年度末の予定 |
| 教科書 | 2031年度から新しい教科書（2029年度に検定） |

### この冊子の中身


| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 特別活動のポイント | 4つ | 2 主な変更点 | 9項目 |
| 3 現行と次期の比較（新旧対照） | 7項目 | 4 授業時数 | |
| 5 生成AI・ICTとの付き合い方 | 3項目 | 6 今からできる準備チェックリスト | 8項目 |
| 7 次期を先取りする授業アイデア | 1本 | 8 現行の学習指導要領・解説（中学校） | |


**無料** 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ
研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版
サイトで見る

**特別活動の3行要約（全校種）**

1. 特別活動を「確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤」と位置付け、三つの視点の「社会参画」を「社会創造」に整理し直す方向が示された。
2. 児童会・生徒会は校則など学校運営に意見を出す活動、学校行事は子供が創造する活動、学級活動は「学級経営の要」と明確化することが適当とされた。
3. 学級活動の項目名と内容を整理し自殺予防等も明示する案。評価は「学びに向かう力」の個人内評価とすることが適当とされ、キャリア・パスポートの例示資料は廃止する方向。

## 1 特別活動のポイント

4つ

### 1 生徒会が校則などに意見を出す

生徒会活動は、校則など学校のルールづくりをはじめ、学校運営に生徒が関わる仕組みだと明示する方向です。先生の適切な指導が前提です。生活上の課題について生徒が提案し、先生との話し合いを通して学校運営に関わる「意見表明」の記載を設ける案です。 P355

**授業では、たとえば** たとえば生徒会が服装や持ち物のきまりについて全校の意見を集め、根拠を添えて先生方と話し合う場をつくることが考えられます。

### 2 学級活動の内容を整理し、数をしぼる

学級活動(1)は、アで学級内の課題、イで学級内の組織や役割、ウで学級をこえた学校の課題を扱うと区別する案です。(2)(3)は、とくに中・高で項目数が多いとの指摘から精選する方向です。SOSの出し方に関する教育などへの対応もはっきりさせます。 P354

**授業では、たとえば** たとえば年間計画の学級活動の題材を一覧にし、重なっているものをまとめて、生徒が話し合う時間を確保することが考えられます。

### 3 学校行事は生徒が創る。「文化・学習発表的行事」

学校行事は、子供たちが創造する活動だと明確にする方向です。また「文化的行事」の名前に学習発表会の要素を加え、「文化・学習発表的行事（仮称）」とする案です。「好き」や「得意」を伸ばした成果を発表する場として位置付けます。 P355 P357

**授業では、たとえば** たとえば文化祭で、総合や部活動で取り組んだ成果を発表する枠を設け、企画から生徒が担う形が考えられます。

### 4 AIは補助に。決めるのは生徒

中学校の生徒会で、総会の議事録をAIでまとめて運営を効率化するといった例が示されています。一方で、合意形成や意思決定の主体は、あくまで子供たちが担うことが留意点とされています。誤った情報への注意も必要です。P362

**授業では、たとえば** たとえば生徒会の企画づくりで生成AIに案を出させ、それをたたき台に生徒どうしで話し合って決めることが考えられます。生徒が使うときは、学校が認めたサービスを、年齢制限や保護者の同意を確かめたうえで先生の指導の下で使い、名前や写真などの個人情報は入力させません（文部科学省の生成AIガイドラインP19）。

## 2 主な変更点

9項目

### 1. 学級活動（ホームルーム活動）の項目名と内容を整理し直す

学級活動の(1)～(3)の項目名を見直し、小中高のつながりが分かるよう内容の構成も整理する案です。(1)アは「学級における生活づくりへの参画」とし、アは学級内の課題、イは学級内の組織や役割、ウは学級を越えた学校の課題を扱うと区別する案です。ウで学校の課題を扱うときも学級での話し合いを原則としつつ、学年や異学年で話し合う場合の扱いは、学級活動で育てたい力に照らして適切に判断すべきとされました。(2)(3)は特に中高で項目数が多いため精選し、SOSの出し方に関する教育や生命の安全教育など現代的な課題への対応をはっきりさせる方向です。P353 P354

### 2. 学級活動を「学級経営の要」、生徒指導・特別支援の「要」と明確化

教育課程が柔軟になり学び方が多様になるほど、学級経営が欠かせなくなるとされました。標準授業時数の中に時間がある学級活動を、学びの土台となる人間関係や心理的安全性をつくる「学級経営の要」と明確化することが適当とされました。学級経営が目指すものは、一人一人の子供と学級全体のウェルビーイング（心身・社会的に良い状態）として広くとらえます。また、特別活動（特に学級活動）は、すべての子供を対象とする生徒指導の第1層（発達支持的生徒指導）の要とされ、学級活動(2)は第2層（課題未然防止教育）も担います。学級活動(2)で自殺予防等を扱うことを「内容の取扱い」に明示し、障害の有無を含む多様な個性や背景を尊重することも内容に明記する案です。P349 P350 P95

### 3. 評価を「学びに向かう力」の個人内評価とし、過度な評価材料集めを抑える案

現行は3観点それぞれで目標に準拠した評価を行い、各活動ごとに十分満足できる場合に「○」をつけていますが、国の示す評価と現場の実態にずれがあると指摘されました。次期は、資質・能力の3つの柱に分けた目標準拠の評価は行わず、話し合いなどの過程で表れる「学びに向かう力」を一体的に個人内評価することが適当とされました。総括的な評価は、成長が特に顕著な場合に「○」をつける形です。教師の声かけなどの形成的評価と、子供自身の振り返り（自己評価）や話し合い（相互評価）を一層重視し、過度な評価材料集めを抑えるとしています。P361 P346

### 4. 児童会・生徒会活動に「学校運営への意見表明」を書き込む

児童会・生徒会活動は、教師の適切な指導のもと、校則など学校のルールづくりをはじめ学校運営に子供が関わる仕組みであることを明示するとされました。例えば、学校のきまりなど生活上の課題について子供が提案し、教師等との話し合いを通して学校運営に関わる、といった「意見表明」に関わる記載を設けることが適当とされています。現在の「学校行事への協力」は内容を見直し、教師等が子供の声を聴く要素を加える方向です。委員会からの改善提案、学校運営協議会への子供の参画、学校評価で子供の意見を聞く取組とも関連し得るとされ、詳しくは解説で示すことが適当とされています。P355 P363 P364

**5. 学校行事は「子供たちが創造する活動」に。文化的行事は「文化・学習発表的行事（仮称）」へ**

学校行事は子供たちが企画や運営も含めて主体的に役割を担い創造する活動だと明確にする方向です。ただし、安全の確保など教師の適切な指導、行事の目的や発達の段階、教師に過度な負担を生じさせないことに留意するとされました。「好き」や「得意」の成果を発表する場として、「文化的行事」の名称に学習発表会の要素を加え「文化・学習発表的行事（仮称）」とする案です。また、総合で学校行事を代替する扱いを整理し、儀式的行事や、文化的行事・健康安全・体育的行事の準備（学習発表会を除く）は総合で代替しないことを原則とする案です。修学旅行や職場体験などは、探究として成り立つ部分について代替を可能とする方向です。P356 P357

**6. キャリア教育の役割分担と「キャリア・パスポート」の見直し**

特別活動はキャリア教育の「要」として、学習の見通しと振り返りを通じて将来の生き方を考える役割を担い、各教科等はその実践の場とされました（例：総合は興味・関心にもとづく探究、家庭科はライフキャリア、社会科は主権者教育）。「キャリア・パスポート」は、例示資料にそったワークシート作りが目的化しているとの指摘から、事務連絡にもとづく「例示資料」を廃止し、見通し・振り返りのための多様な取組に変える方向で見直すべきとされました。記録の蓄積はクラウド上などでの個人管理を基本とし、学校による引継ぎは求めない方向です。P358 P359 P95

**7. 「合意形成」「意思決定」の意味と進め方を示す**

合意形成は、多様な意見や価値観、背景を認め合い、対立や葛藤と向き合いながら「納得解」（みんなが受け入れられる案）をつくっていくこと、意思決定は自分の価値観に照らして責任をもって行動を選ぶことと整理されました。合意形成の典型的な流れは「課題の設定→発散（意見表明・受容）→収束（吟味・創造）→実践・振り返り」、意思決定は「課題の設定→発散（情報収集・相互参照）→収束（自己理解・自己決定）→実践・振り返り」とされ、解説等で参考として示すことが適当とされています。安易な多数決や予定調和に流されず、納得解や暫定解をつくることが重視されています。ただし実践を特定の型にはめるものではないと注意されています。P345 P359 P360

**8. 三つの視点と用語の見直し（「社会創造」「主体的」など）**

前回整理された「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点のうち、「社会参画」を、身近な社会をよりよく創ることを重視した「社会創造」に整理し直すべきとされました。目標と見方・考え方の記載も見直す方向です。また、同調圧力につながるとの指摘がある「集団」という語は、具体的な対象があるときは「学級」「学年」「学校」などと書き分ける方向です。「主体的」「自主的」「自発的」は原則として「主体的」にそろえ、「～に対応させる」という意味の「適応」は見直す方向です。特別活動の英語訳も「Tokkatsu（Student-Led Activities for Civic and Personal Development）」と定めることが適当とされました。P351 P352

**9. デジタル・AIの活用と裁量的な時間との関係**

意見や少数意見の可視化、活動記録や振り返りの蓄積、グループウェアでの連絡などの活用イメージを解説等で示す方向です。AIは生徒会の議事録まとめや企画づくりの補助などに役立つ場合がある一方、合意形成や意思決定の主体はあくまで子供であること、効率化が目的にならずリアルな体験や協働を重視することが留意点とされました。また、裁量的な時間でいじめ防止やソーシャルスキルなど特別活動に関わる活動をする場合は、特別活動との役割分担や連携を図ることを明確化する方向です。年度途中に子供の発議で決まった活動の時間を裁量的な時間で確保する在り方は今後検討とされています。P362 P363

## 3 現行と次期の比較（新旧対照）

7項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

| 項目 | 現行 | 次期（審議まとめの方向） |
|---|---|---|
| 学級活動（ホームルーム活動）の項目名 | (1)学級や学校における生活づくりへの参画、(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全、(3)一人一人のキャリア形成と自己実現。 | (1)学級や学校における**生活の創造**、(2)**日常生活における自己の成長と健康安全**、(3)**将来に向けた自己の成長とキャリア形成**（いずれも案）。P354 |
| 学級活動(1)ア | 学級や学校における生活上の諸問題の解決（否定的な状況の改善に限ってとらえられがちと指摘）。 | **学級における生活づくりへの参画**（アは学級内の課題、ウは学級を越えた学校の課題と区別。ウも学級での話合いが原則）とする案。P354 |
| 学級活動(2)の項目（中学校） | ア自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成、イ男女相互の理解と協力、ウ思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応、エ心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、オ食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成の5項目。 | ア相互の理解と尊重、よりよい人間関係、イ**生命尊重と思春期の悩み**、ウ心身の健康と安全、エ学校給食と食育の4項目（案）。アに「男女の性別や**障害の有無**、異なる文化を含む」多様な個性の尊重を含める。P350 P354 |
| 三つの視点 | 人間関係形成・社会参画・自己実現。 | 人間関係形成を基盤に、**社会創造**・自己実現が**往還的**に高まる関係として整理（「社会参画」を「**社会創造**」に）する方向。P352 |
| 評価の仕方 | 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度ごとに目標に準拠した評価を行い、各活動ごとに十分満足できる場合に「○」。 | 3つの柱に分けた目標準拠の評価は行わず、「学びに向かう力」を一体的に**個人内評価**。**成長が特に顕著な場合**に「○」を付記。**形成的評価**・自己評価・相互評価を重視（案）。P361 |
| キャリア・パスポート | 事務連絡（H31）にもとづく様式例（例示資料）を参考に各学校が作成・蓄積。 | **例示資料を廃止**し、見通し・振り返りのための多様な取組へ見直す方向。蓄積はクラウド上などでの**個人管理**を基本とし、学校による**引継ぎは求めない**方向。P359 P95 |
| 学校行事の種類（文化的行事） | 「文化的行事」。学習発表会は解説で具体例として挙がっている。 | 学習発表会の要素を名称に加え「**文化・学習発表的行事（仮称）**」とする案。P357 |

## 4 授業時数

特別活動の時数を変えるという記述はない。学級活動は標準授業時数に含まれ、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事は標準授業時数に含まれず各学校が適切な時数を充てる（P349注）。調整授業時数は学校行事・クラブ活動・生徒会活動等の時数の上乗せには使えない（P32）。ソーシャルスキル育成などは特別活動（学級活動）への調整授業時数の上乗せで対応することも考えられる（P33）。クラブ活動の時間は全国的に減少傾向で、時数の確保を求めることも難しいとされる（P355）。

## 5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

### 1. 「生成AI時代の主権者」を育てる

多様な他者との対話や協働で、ルールづくりや学校生活の改善、行事などに子供が主体となって参画することで、「生成AI時代の主権者」として確かな民主主義の担い手を育てる領域として位置付けを明確にするとされています。P351 P352

### 2. AIを含むデジタル学習基盤の活用のあり方を示す

合意形成や意思決定の考え方の整理、学習評価の改善とともに、AIを含むデジタル学習基盤の活用についても具体的なあり方を示すとされています。P346

### 3. 特別活動でのAIの活用例と留意点

中学校の生徒会で、総会の議事録をAIでまとめて運営を効率化した例や、いじめ防止月間の企画の練り上げ、ポスターや動画づくりに使った例があります。一方、合意形成や意思決定の主体はあくまで子供であること、誤情報などの負の側面をふまえること、効率化を目的にせずリアルな体験や協働を重視することが留意点とされています。P362 資料編(3)P186

## 6 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 学級会の進め方を「課題の設定→発散(意見表明・受容)→収束(吟味・創造)→実践・振り返り」の流れで見直し、すぐに多数決に頼らず、納得解や暫定解をつくる時間を確保します。P345 P360
- [ ] 今すぐ 観点ごとに「○」を記録する評価補助簿づくりを見直す方向をふまえ、話し合いの過程で見られた子供の姿をその場で認める声かけと、子供の振り返り・相互評価の時間を重視します。P361
- [ ] 今すぐ 学級活動を「学級経営の要」として、一人一人が安心して意見を言える関係づくりを計画的に行います。学級活動(2)では、障害の有無を含む多様な個性や背景を尊重することを扱います。P349 P350
- [ ] 告示まで 児童会・生徒会が学校のきまりなどについて提案し、教師と話し合う手順(提案の受け付け方、回答の時期、回答の仕方)を校内で決めておきます。P355
- [ ] 告示まで キャリア・パスポートの「例示資料」を廃止する方向をふまえ、何のために書くのか(見通しと振り返り)を校内で確認し、様式を簡素にします。蓄積はクラウド上などでの個人管理を基本とし、学校による引継ぎは求めない方向です。P359
- [ ] 先行実施まで 学校行事ごとに、子供が企画・運営を担う部分を1つ決めます。安全の確保、行事の目的、教師に過度な負担を生じさせないことを前提にし、文化的行事を「好き」「得意」の成果を発表する場にすることも検討します。P356 P357
- [ ] 先行実施まで 学級活動(2)で自殺予防やSOSの出し方に関わる内容を扱う時期を年間計画に位置付けます。動画を見て終わりにせず、子供の主体的な活動と組み合わせます。P350 P354
- [ ] 先行実施まで (小学校)クラブ活動の学年(主として4年生以上)の縛りや実施時期を柔軟にできる方向をふまえ、学校規模に合った運用や、地域の放課後の活動とのつなぎ方(関係する地域の活動を掲示して紹介するなど)を検討します。P355 P356

## 7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中学2・3年（生徒会の委員）　50分（生徒会の委員会活動の時間）

### 生徒会で「きまり」の改善を提案しよう

学校のきまりについて根拠と全校の声を集めて提案し、先生との話し合いに備えます

手順・ワークシート

**ねらい**

学校のきまりについて、全校生徒の声と根拠をもとに改善案をつくり、教師との話し合いに向けて提案を準備する。

**流れ**

- 5分　委員長が今日のゴール（提案書の骨子を完成させる）を示し、提案は「要望」ではなく、学校全体がよりよくなる案であることを確認します。
- 10分　アンケート結果を読み、多い意見だけでなく、少数意見や「今のきまりのままがよい」という意見も確認します。
- 10分　きまりができた理由（安全、学習環境など）を確かめ、その目的を守りながら変えられる部分はどこかを話し合います。
- 15分　提案書を作ります。改善案に対して先生・保護者・地域の人が心配しそうなことを予想し、対策と試行期間を考えます。
- 10分　先生役の委員を立てて模擬の話し合いをし、質問に答えられるかを確かめます。次回までに足りない情報を分担して調べることにします。

**評価**

自分たちの要望だけでなく、きまりの目的や異なる立場の声をふまえて案を考えているか、話し合いを通して案を修正しているかを見取ります。特別活動の評価は、話し合いの過程で表れる「学びに向かう力」を個人内評価し、成長が特に顕著な場合に「○」をつける形にする方向が示されています。

## 8 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編**
https://www.mext.go.jp/content/20260730-mxt_kyoiku01-100002608_13.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

## ご利用について

サイトで最新版を見る

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）